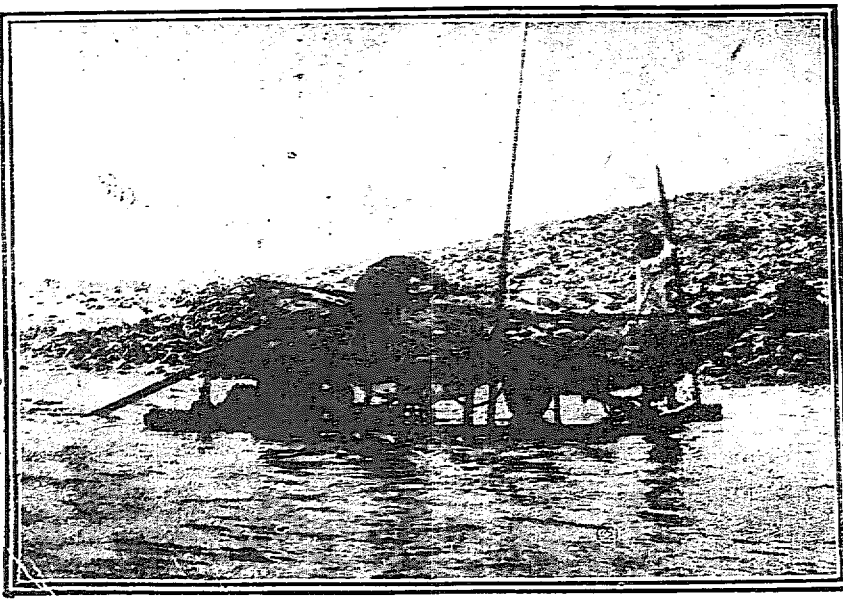


減多に覆らぬ後船



濟州島の海女(三)

眞珠の宝に映く眞珠

一、濟州島の海女は、眞珠の宝に映く眞珠である。...

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

海老一を観て

土砂降り 中部朝鮮に多い

未だ雨は止まず 中部朝鮮に多い

土砂降り 中部朝鮮に多い

尾崎氏に決死諫状

家計不如意から逆上して自殺

尾崎氏に決死諫状

選挙違反判決

口前代議士 選挙違反判決

選挙違反判決

九白餘名の 漢子同盟罷工

漢子同盟罷工

漢子同盟罷工

郵便送達夫 格闘

格闘

格闘

新鑛石の募集

募集

募集

大阪米市

大阪米市

大阪米市

下關米市

下關米市

下關米市

和紙市況

和紙市況

和紙市況

米市市況

米市市況

米市市況

生魚市況

生魚市況

生魚市況

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

南大門の週報

南大門の週報

南大門の週報

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦


大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

大混戦大激戦

This image appears to be a scan of a document page, possibly a film strip or a heavily textured surface. It features a prominent horizontal band of dense, granular texture in the upper half, with a dark, irregular border at the bottom. The overall appearance is high-contrast and noisy, suggesting a low-quality scan or a specific type of document.



<p>謝近火御見舞</p> <p>電話三九番</p>	<p>關西商會</p> <p>電話三九番</p>	<p>謝近火御見舞</p> <p>電話三九番</p>	<p>謝近火御見舞</p> <p>電話三九番</p>	<p>謝近火御見舞</p> <p>電話三九番</p>	<p>謝近火御見舞</p> <p>電話三九番</p>
<p>電話三九番</p> <p>電話三九番</p>	<p>電話三九番</p> <p>電話三九番</p>	<p>電話三九番</p> <p>電話三九番</p>	<p>電話三九番</p> <p>電話三九番</p>	<p>電話三九番</p> <p>電話三九番</p>	<p>電話三九番</p> <p>電話三九番</p>

大阪府堺市

肥塚源次郎

京坂本町一丁目 (電話長二九番)

特約販賣店 佐藤牧太郎

小兒科
意隨院
野
電話二〇四番
院

今迄に有上れたる効能極證の物を全々運にす

朝鮮總督府御認可

はい取散

室内の空氣中に撒布せば、即には十分間にて全死保證す

尚、野菜、樹木、動物の毛、手、足、爪、等には、寒紗を振掛けて細き分

全、鮮、子、于、室、内、に、廻、る、時、候、に、京、城、南、米、倉、町、交、番、所、前、方、に、品、田、藥、安、房、

▲募集、特約店、及、行、商、を、希、望、の、方、は、御、照、會、を、乞、う、各、地、藥、店、並、に、小、間、物、店、に、て、販、賣、す、

京城永樂町二丁目商品部別館裏門通

電話二六〇八番

酒井婦人病院

入院隨意
院長 酒井三郎

第二百三十一回 田邊南龍口演

マズ イタ マズ
マズ マズ
井上博士、

ロート
目薬

東洋一 新形の魁
内田式 ストローク 鏡は
臨年鑑賞
傾均一 耐久
保証

御用
行旅
靴と靴

◎定価 丸靴 二銭
東京市安永町堀田伏見町角
内田靴靴造問屋
電話 五五二 編笠一八七



廿五 十光

[illegible]

「舟を漕出し忽ち伊勢川の伊瀬村の海岸へ舟を着けて隠り上り、ヤブ／＼鯉波の聲を揚げて伊瀬村（押入）して参ります。伊瀬村では甚五右衛門が不ふしの強い奴等も居た門を嫌、腕ツぶしの強い奴等も居たが不意であるから堪りません、五人や十人並つた處で先方は六七十人や八十人並つた處で先方は六七十人、勢い鋭く笑しかつて来るから敵はナシで、皆々逃げてしまふ。吉兵衛は眞先に立つて、吉助・奴は一匹も助けけるな、逃げる者には目を懸けるな、好きなアンパン」（第七回）

木村屋来たばかり今夜があけぬ
な、片離か如等の家を打毀せしと云ふ圖をしたから、柳村に引合ひするに當るを幸ひ、酒師の家を片端より打ち取つてしまふ。ソレ引揚げると龍崎を作つて増元の舟に乗りまして、引揚げました。跡では甚五右衛門、同様に金銀を盗み、三つた此の

明治町
電話三六〇六
浪花館

東京電話三六〇六
浪花館

●落語(ばなし) ●落語(助六) ●落語(助七) ●落語(助八) ●落語(助九) ●落語(助十) ●落語(助十一) ●落語(助十二) ●落語(助十三) ●落語(助十四) ●落語(助十五) ●落語(助十六) ●落語(助十七) ●落語(助十八) ●落語(助十九) ●落語(助二十) ●落語(助二十一) ●落語(助二十二) ●落語(助二十三) ●落語(助二十四) ●落語(助二十五) ●落語(助二十六) ●落語(助二十七) ●落語(助二十八) ●落語(助二十九) ●落語(助三十) ●落語(助三十一) ●落語(助三十二) ●落語(助三十三) ●落語(助三十四) ●落語(助三十五) ●落語(助三十六) ●落語(助三十七) ●落語(助三十八) ●落語(助三十九) ●落語(助四十) ●落語(助四十一) ●落語(助四十二) ●落語(助四十三) ●落語(助四十四) ●落語(助四十五) ●落語(助四十六) ●落語(助四十七) ●落語(助四十八) ●落語(助四十九) ●落語(助五十) ●落語(助五十一) ●落語(助五十二) ●落語(助五十三) ●落語(助五十四) ●落語(助五十五) ●落語(助五十六) ●落語(助五十七) ●落語(助五十八) ●落語(助五十九) ●落語(助六十) ●落語(助六十一) ●落語(助六十二) ●落語(助六十三) ●落語(助六十四) ●落語(助六十五) ●落語(助六十六) ●落語(助六十七) ●落語(助六十八) ●落語(助六十九) ●落語(助七十) ●落語(助七十一) ●落語(助七十二) ●落語(助七十三) ●落語(助七十四) ●落語(助七十五) ●落語(助七十六) ●落語(助七十七) ●落語(助七十八) ●落語(助七十九) ●落語(助八十) ●落語(助八十一) ●落語(助八十二) ●落語(助八十三) ●落語(助八十四) ●落語(助八十五) ●落語(助八十六) ●落語(助八十七) ●落語(助八十八) ●落語(助八十九) ●落語(助九十) ●落語(助九十一) ●落語(助九十二) ●落語(助九十三) ●落語(助九十四) ●落語(助九十五) ●落語(助九十六) ●落語(助九十七) ●落語(助九十八) ●落語(助九十九) ●落語(助一百)

[illegible][illegible]


▲浴後の仁丹一粒は

ひふ一日の疲勞を恢復し新しき勢力を生む

誰方も缺さず朝夕に暑さ忘れて夏瘦知らぬ

仁丹必ず召上れ!!

金言 水は水より出でて水より寒し (孔子)



胃腸
胃腸

主治

● 嘔吐 ● 吞酸 ● 胃痛 ● 腹痛 ● 泄瀉 ● 痢疾 ● 飲食不消化 ● 滯滯及水瀉 ● 腹瀉 ● 其他諸病より起る一切の下痢に用ひて大効あり

(價目表 五仙 壹圓)

本舖 大坂堂島元製備
高橋盛大堂藥局
高橋盛大堂分店
高橋盛大堂分店

質口大

京城黄金町長橋町入
電話三九一六番
田村質店
商品増保便利取扱

消化と

活用
● 防疫に仁丹 ● 五六粒
● 悪酔に仁丹 ● 二十粒
● 食後に仁丹 ● 四五粒
● 船量に仁丹 ● 七八粒

小兒良藥
主治 胎毒 氣逆 五疳 疳積 解熱 痘疹 麻疹
大坂天満橋 樋屋合資會社
(全國支店 大阪店あり)

天下一品
猪印のみせり粉
金牌受領
INSECT POWDER
元造製 大庄
南京虫蚤 油虫等退治
全滅する事請合
吹出散布器入 定 金二十圓
立罐入 金十圓、金五圓
到大阪二販賣店あり

高貴藥配合

くだりめど

最新良劑

清

傷

高橋盛大堂藥局試驗部

胃腸最新

チスゲチ



胃腸疾患 食慾不調 貧弱後の恢復期、營養補給の目的にて幼の疾患小兒の營養不真等に食用せらる。

常用すれば血液を増し勢力を感にす。

〇説明書送呈 東京本町

美人浮世繪

上古今世に涉り斯界の卅六大家の傑作を原書通りに東都の彫刻師作しより月三枚を紙付會費四十五錢にて頒布す急入會あり取次希望者三錢送れ東京旋栢木三三七正文軒洋世繪刊行會 振京八九八七

日本郵券 十二ヶ國專賣特許

胃腸疾患 食慾不調 貧弱後の恢復期、營養補給の目的にて幼の疾患小兒の營養不真等に食用せらる。

小兒大學目藥



小兒用大學目藥は眼科の大醫が専ら十歳以下の小兒の爲めに感敏且周到なる注意の下に創製せられしものにて子供のため信賴すべき目藥であります

定價 拾圓

大阪 全天堂藥房

淋病新藥 ゴンチール

〇極メ合理的の創製セラレ彼ノ危険ナル洗滌等ノ副療法ヲ要セズ單ニ本劑ノ内服ニ依リ淋病 膀胱炎 尿道炎 等ノ泌尿器疾患ニ對シ容易ク治療ノ目的ヲ達シ得ル最モ卓越セル新劑ナリ

〇各地有名 説明書ハ現品ニ添附ス 藥店ニアリ



大阪 市道修町 西村藥林社 大坂 大正三三ノ藥房 大坂 大正三三ノ藥房

一等 六十粒入 六十粒入 六十粒入 五十粒入 五十粒入 五十粒入

日一十月八
(頁八てせ合と刊タ)

ばならなくなる。列國が
更に紛亂の種を醸す。

乾燥せるを以て、新嘉坡に比し、
身に快なり。赤道の南に於ては、

人をなし、低つて雨となり、午後は晴れ、雨なき能はず。之れを氣象報告

附つききながら、昌まさ君、手紙で書いた
君は氣きで違ちがつたかと思つた、

火災重傷

內地製特別種
代價一枚金六十鎊

新治療法である
對症的一時逃れ
の療法である

● 論 ●

●肺病 ●心臓病
●腎臓病 ●耳

「誰」
布施生譯

「誰、それはそれで決まらうとしたし、
そこでもう一問、何でも手取早い
が肝要やと、君は八島組大郎氏に
懇意をやと云ふ事やな。」八島
も、知つてゐます。親友です。
の八島氏は一體どんな人ぢやな
どんな人物と云ふ返事には少く困
だらしい餘蘊は言葉短に「八島は
都様の癖で、爺はまだ若い若き當
り拾得で、私と一番親しいとして
番親切な友人です。」そんな近況
方なら此老翁も不思議になりたい
んぢや、いや何昌隆、實は一才其
かに會ひたい事があるので、これ
翁やつと借越ちやつたが先刻君の
で手紙を出しておきましたのぢや
今に八島様が此處へ見ゆるぢやら
と思ひます。」わ、貴君は。と言
かけたが復却へられた、老人は側
一間子で、「いや借越ちやつたよ、い
や出すべき事は私も知つてゐる、
これは是非君にその力に會つて戴き
かして是を、實は其時の對話もつ
た。此老人に注文がありませうぢや、
れはな。言懸けた時に門口で呼鈴
を聞けたや、しまつた、八島君が
たやうぢや、君にお話の御注文を
てゐるわけにはいかんわい、よ
う、私は隠れますからな、何處
隠れなから此方を覗けるやうな格好
の場所がありますまいかな。」木
鹿の致主。」と亡し餘富が指す間

是は自分が書きもしない手紙に
 んな事が書いてあつたのかと呆気
 くられて返事も出来ずに居るこ
 島は綴けて「何故君はこんな事位
 落膽するんだい、君の胸をまだ
 しく旗上するのに充分ぢやないか
 君、君に其氣があるなら、僕
 多少斯處がある、君は君の自由
 任せよ」と此場合、こゝなにつて世
 上位錦高に取つて難有い事は無い
 彼は思はず其友を伏拝んだ、として
 涙の籠つた燈で「難有い、しもも
 し八島若々年度の一件ばかりは全く
 子やや駄目なんだからね」「何故だ
 い、君は一體どうしやう云ふんだ
 矢張り、里に居る心算かい」「さ
 如何したのか實は僕には全然工
 がつたものなんだ。」

日報詩壇

○牡丹 蘇下顧柳女史
 移植三年後。今砌初吐芳。只饒邊
 地。詠又貧新粧。

評曰情思縹緲厚

○竹枝煎茶 竹田 燕甫
 小童日午僱書販。鼎設清泉手自煎。
 際清風生兩腋。此情竹外幾茶煙。

評曰筆路不窘道

○山邊勇輔先輩華甲詩時
 安永 春甫
 童齒當童過生辰。甲子一週桃李春。
 幽香歌嘯鳴曲曲。南山松色亦嘉賓。
 名遠身逾健。女修男婦業更新。庭
 欣笑矣。蒼天不老。冰心後輩能
 評曰詩義老得無餘韻。後輩最切
 ○竹枝煎茶 大出 水翁
 煎罷龍巖新作煎。千竿繞屋午風香。
 來過客不知君。只記臨風忘髮涼。

評曰即興亦佳

○題佛庵寺瓦 高井 椿室
 煙霞又美古雉林。極到興亡淚滿襟。
 閑寺過來拾瓦形。如半月貌感情深。

評曰新發欲卻之形勝。感深近目

○秋陰倦榻 栗原 華陽
 都陰深處有餘光。借榻一身輕似鴉。
 塵不侵人不到。杜鵑聲冷促堆紗。
 中足忘前第。倦榻猶留樹影與松香。
 窗一棧千金。滿室清涼滿滿。

評曰二首清涼不見塵氣

○驚蟻津打魚 西村 秋淵
 沙明柳暗驚蟻津。液刺金鱗雨後新。
 秋浦漁人結網。笑言漁父是前身。

評曰又有姿致

南洋製糖株式會社分與

一、申込證據金
 一、募入決定法
 一、申込證據金

轉居

東京市美

西洋洗濯工

原料諸物價騰貴に
 より従前定價の貳
 本組合に於て決議
 下度此段謹告仕候
 大正六年八月

株式分與

一、申込證據金
 一、募入決定法
 一、申込證據金

東京市美

西洋洗濯工

原料諸物價騰貴に
 より従前定價の貳
 本組合に於て決議
 下度此段謹告仕候
 大正六年八月

南洋製糖株式會社分與

一、申込證據金
 一、募入決定法
 一、申込證據金

轉居

東京市美

西洋洗濯工

原料諸物價騰貴に
 より従前定價の貳
 本組合に於て決議
 下度此段謹告仕候
 大正六年八月

一切前金の事
致候
又は御座全致候
御座便利に候
爲す

鳥飼社種苗部
振替口座東京二二六六二
電話 龍田六四番電 龍二

イト
カーバイドには品位卓越
發生力最も強大なる
世間の定評なり
商品
安に販賣仕候
車に販賣仕候
京城南米倉町十七番地

山陽商會

實値上廣告
百不得止來十五日
部方值上致す事に
り候間御承知被

洋洗濯業組合

芝公園第五號ノ九
濃部俊吉
電話 芝七一九〇

尾崎敬義秋本等七
地有方家一百餘名
製糖株式會社は資
全部起人非に資
の爲めに持株の
詳細なる目録見
送す

安頂
五拾圓
七圓五拾錢以上
八月十八日
に制限を以て
合は申込價格の
り募入をなし其
七圓五拾錢

朝東
鮮資
城會
明社
治桐
町屋
目式株
四現店
三物取
番地
店拔

桐生屋現物店

病弱を斷滅せしむる根本療法である藥物療法に如き危険なものは亦再發の憂もない精神の病癆でも肉體的疾患でも例へば

●腦神經衰弱 ●胃腸病 ●眼病 ●脚氣 ●リウマチ ●神經痛 ●ステロイド ●肋×

何より確かな證據不治の病に苦しむもの

京城本町五丁目電
健全哲學
分館長

通信教授 **採鑛冶金**
見本附規則書入用の方は郵金
申込所忠南親岩里青陽鑛山

納涼特別興行
八月より **平素の十一日** 料金の

天活會社が久敷計基中の總令液瀾曲近播快極まりなり大寫


●舊劇 ●車丹

世界三大寫眞の一 ●魔人? 三護

●新派連鎖情の 大悲哀劇情の

●宮兵空前の大長尺に付正午後

水車



農蠶用具 肥料種子 京城南大門一丁目

[illegible]

明治大學
◎法科、商科、政治科
◎大學豫科
入學は九月十日に涉り三十日開校
科は臨時入學を許すところなり
及編入試験は九月十日中學校同程度
學の授受開始
東京駿河臺

學募集
經濟科各專門部
商科政治經濟科第二學期
並各專門部特科及大學學
校特等科及專門部に試験入
学の要は特科に試験入
学の要は特科に試験入
明 治 大 學
内地製特別露罎
代價一枚金六十錢

小兒科 (入院) 京橋
難病者の
晩近醫療界の驚異
本療法は健全哲學館大學長米國哲恵
にして精神哲學の原理に關り藥劑を
し得る理想的の最
新治療法である
對症の一時逃れ

池上醫院
福音
哲理治療開始
博士鈴木美山先生の指導せらるゝ處
使用せし諸病一切を最も安全に治療
●眼 ●腫瘍 ●肺病 ●心臓病 ●腎臓病 ●耳

[illegible]

委託
 送呈す
 有る有力家
 地たる二會社
 公衆せざる
 のため特に持
 詳細なる目論見
 七圓五拾錢以上
 七圓五拾錢以上
 八圓十八日
 合は申込價格を以て
 募集入をなし其他
 常を以て
 七圓五拾錢
 朝鮮東京
 城會資
 明社
 治生桐
 町屋株
 二丁目
 丁式株
 十四目
 三番
 地番
 現物
 店取
 店拔
 店物現屋生桐

[illegible]

三丁目
田春藏本店
堀根寺城三七番地電話三三六番
旭町二丁目 黄金町一丁目

西洋沙路工
原料諸物價騰貴に
より従前定價の貳
本組合に於て決議
下度此段謹告仕候
大正六年八月
京龍西洋

不得止來十五日
 方值上致す事に
 候間御承知被
 也

芝公園第五號ノ九
 濃部俊吉
 電話 七一九〇

洗濯業組合

納涼特別興行

八月より
十一日

平素の
料金の

天活會社が久敷計畫中の盛な
液瀾曲折を描き極まりなき大場

● 舊劇 ●
車丹

世界三大寫眞の一
魔？ 第三護
人？

● 新派連鎖情 ●
大悲哀劇情の

● 堂 ●

● **黄金館**
御愛顧を謝し
値上げ不仕候
と完成せし

波守 全六十幕
告知新聞筋書連載
ら **影** 自第五篇
至第六篇

かげ 全六幕
高旭洲琵琶彈奏
館獨特實演二場

東洋卒先著たる我田中
にしてアセチリン瓦斯の
事他品の遙に及ばざる所
各種ペンラ及附屬品
漁業用鑛山用室内用自轉
る各種ランプ及附屬品格
田中カーバイド
鮮滿總代理店

イート
カーバイドは品位卓越
發生力最も強大なる
世間の定評なり
腐品
車用業等堅牢完全な
安に販賣仕候
京城南米倉町十七番地
山陽商會

患でも例へば
● 脳神経衰弱
● 胃腸病 ● 眼病
● 脚氣 ● リウマチ
● ス・癩瘡 ● ヒ
ステリー ● 肋々

何より確かな露擾不治の病に苦しむ

京城本町五丁目電

健全哲學

分館長

通信
教授 **採鑛冶金**

見本附則書入用の方は郵送
申込所 西南親岩里青陽鑛山

大坂南區新川町

人は是非御試しなさし、
半終點泥橋際

館大學城分館
京大分館
鈴木天聲

三井目木柄間
中川さて

二録封入申込次第送附す
採鐵冶金講習會支那

並講習生募集
會員

一切治れぬ病
はなない事實は
議論を沈黙せ
しむる最上の
武器にして論
よりも活るか

戦地上

○法科、商科、政治科、
○大學豫科
●法科
入學は九月、十月に涉り三十日間
科は臨時入學を許さるるべし
及編入試験舉行●中學校同程度
學の授業開始九月十一日學期則
東京駿河臺

夏秋
種發
秋蟄
種發

著年通り之責任を以て發賣致候代金は
例金大増完全なる利益高に納め御達
御中發生又は其他異議の場合に御取
御達金は小爲替又は振替東京城二六
京城府津江通四番地 東

經濟科各專門部
商科政治經濟科第二學期
學校に持参なは九月五日入學
二校郵券添付申込次第送付す

實
一切前金のこと
致候
又御返金致候
番御便利に候

明
治
大
學

内地製特別露種
代價一枚金六十錢
九月末迄毎日出賣中

電話南龍山六四番電二五
電話南龍山六四番電二五

登
社
種
苗
部

小兒科 **(隨意)**

難病者の晩近醫療界の驚異

本療法は健全哲學館大學長米國哲學
にして精神哲學の原理に則り藥劑を
し得る理想的最新治療法である
對症的一時逃れの療法ではなく
病源を斷滅せむる根本療法であ
る危險物療法のためば亦再發の憂
もなく精神内疾癲でも肉體內疾

●論よ

私して昨一月以來、
地の排田、田縣赤土、
二十八日、十日、新
らふことと云ふ、
て、處へたいと思ひ
行理治療法でした。

福音

哲理治療開始

博士鈴木美山先生の唱導せらるゝ處
使用せず諸病一切を最も安全に治療

り證據

肺病、咳嗽、氣管炎、
腎臟病、耳
鼻咽喉病、中
風症、痔疾、
梅毒、淋病、
精神病、婦人
病、小兒病、
どまり、諸種
の軟弱、癱瘓
の症、血毒物

大正六年六月廿五日

明治大業

學募集

一 內科入院

（電二二七二番）

今年には昨年にくらべて患者が多い
京畿道警務部 衛生係主任 談

京城市内に客月来赤痢流行の兆あり
日な患者を續發し市内に於ける六月
中の患者は二十一人なりしが七月に
は七十五人と云ふ多數に上り八月に
なつてからも毎日絶えず二三名乃至

つ内地人が大部分であつて朝鮮人

余は自任の職に在りて、
 赤痢、監生の病よりも憂ふ。夏秋の
 突に最も流行する様である。昨年に今
 年程の流行はなかつたが七月には二
 十八人八月には三十九人九月には五
 十三人と云ふ風に九月に至り最も多
 師の誤案も受けるけれども下服、
 厚いから豫防に就て充分の注意を
 の人は朝鮮人よりは監生の事に注
 意甚だ望ましい内地人等の中流より

衛生上の注意 扱は殖

臺中には八、九、金、數、僧、生、に、注、意、す、る、人、が、
も、少、し、し、涼、し、く、な、る、と、兎、角、僧、戒、心、が、
緩、み、油、斷、す、る、機、で、あ、る、が、此、の、際、市、民、
は、決、し、て、従、來、の、僧、戒、を、緩、め、り、不、給、で、
嚴、禁、に、十、二、分、の、主、意、を、要、す、る、事、な、り、
と、せ、れ、て、其、他、生、活、上、の、諸、般、色、を、
事、か、病、氣、に、罹、つ、て、の、者、は、平、氣、に、醫、治、
診、察、も、受、け、ず、輕、蔑、の、心、は、平、氣、で、外、
に、し、勞、働、に、も、従、事、し、居、る、か、ら、甚、だ、
險、十、萬、の、事、で、あ、る、

館置り
岩崎男はモリソン氏の圖書館を二

○左程に注意を 振はぬ様
である成程度別持ベネトの如きは
恐るべき傳染病であつて一時突然の
に大流行を來し容易な程を造
うするが併し患ふ事早い又赤痢等
五萬圓にて買收せり(東京電報)

森代議士失格

富山縣知事藤原大郎氏
同縣代議士森重氏に對する
無期停職は十日名古屋高等法院の判決

●馬賊邦人賣藥

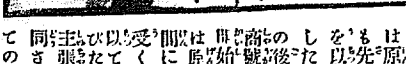
いしかも者云はす月旦云はす秋で
も冬で

○始終小流行をして居る
のであるから其の人命を被害し生産
力を廢絶する上から云ふと是等の傳
染病が社會に流す害毒は遙かに虎効
拉やペストよりはるかに以上と云はね

商を襲ふ

綿密子を距る北門十八英里、英、宇、而、住、賢、寶、藥、師、當、本、土、一、方、へ、四、日、七、名、の、町、賊、團、入、鐵、徹、より、來、合、せ、たる、其、村、人、を、始、め、三、三、近、隣、の、支、理、等、來、合、せ、た、る、を、悉、く、一、陣、に、殲、滅、し、三、名、は、込、め、賊、四、名、は、屋、外、に、被、殺、し、三、名、は、

◆驟雨◆古賀祐雄



今の處復舊の見込みが立たぬ

十日、室戸爲の同日午後五時東京、
鐵道、新浦、南川間の鐵道線路に出
擊、し、取、及、び、處、決、潰、せ、したため、東
水、山、直、道、の、車、は、正、午、全、部、廢、車、を、發、せ、
し、も、遂、中、引、起、して、河、浦、驛、に、止、ま、り、た
る、が、此、の、列、車、中、に、は、緒、任、重、臣、重、臣、長、市
電、話、に、非、常、な、な、故、障、を、與、へ、し、た、
る、が、此、の、列、車、中、に、は、緒、任、重、臣、重、臣、長、市

因に復舊工事は
市井少將一行の

●**被害は大きい**
●**類似商號使用**
●**禁止請求訴訟**
原告の敗訴に歸す

居れる普通急行列車は汗流に止
居れり（同様に「救世目録」）


と「**抗辯し結局「侵害會社」**」と「**商
父字は「**救世目録**」であるを以て「**商
條に依る類似商號には侵害せざ
と認められ此程原告の敗訴に****

藥合資會社代表者 藥合資會社は發賣の人蔘エキス

須藤久左衛門氏を被告として杉戸町
須藤商號使用停止の請求訴訟を京
東地方法院に提起せり原告たる 藤氏
主張の要旨として
は原告は被告より
も先きに右の商號
を以て營業を開始
長崎縣商會高松支店長村京

●美装して萬
手に負へぬ

年を相手に活動寫眞館等に出入
紀を紊亂するのみならず盜癖を



原告の營業に世
 間に疑點混同を
 受くること多きを
 以て此の請求に反
 びたるものなりと
 主張し被告側に混
 同さるる意圖あり
 ての商標に非らず
 手に負へざるも家賃貸しき爲め
 も向顧みざるより同人は現
 て手當り次第に窃盜を働きて僅
 變察察に引致されたるが最近に
 本町二丁目三浦水方にてルビ
 輪一箇(二十一)を萬引し又同
 木東方にて金指輪一箇を其外

し櫻井町二丁目宮部さくらゐのちやうめみやべにて豊臣に六郎はかとよひにろくにんはかは豊法の蘭亭とかけ座の蘭亭とかとよはのらんていとかけざのらんていとかつて兎も角義之を隠棲することうもかくぎのをしをかくるゝことが

有方にて牛欄三枚尙外數箇所より化粧品書籍等を取せし事、仲間し取調への上身訃は、檢事局へ送らる
 佛蘭西教會の
 高著上にて啓書
 (寄左方、随分君ごとの眼から
 へは惚しげたものもあるが、ニア
 内我が國に於ける佛蘭西と稱せらるるものと、西最も接近する如何に

而二十分早京城にて
明治町の御臨西教會
補珍蘭亭等が優良な
ものである

堂屋上端の尖端に雲然落雷も甚なり
 三ノ板を割離破損せしめたるも人
 前には異狀なかりしこと
 上段の優秀なるもので、同氏所蔵
 唐臨絹本唐字帖も極めて経綸なる
 ものである。
 金剛山探勝團體 發で満
 鐵京城管理局大阪出張所に於て募集

泊の上元山に向ひ全
義之の書中に在つて傑作なりと申

京より更に仁川を視察し二十四日夜行にて南大門路驛の降定なりと而して本陣に對しては二章車一輛を贈主賓であると思ふ

(四章)の贈答は如何に

(客無語師書も亦派なものである

發列車ては露國人男
長春より撫濱に向ひ
餘清齋、三希堂等の法帖拓も

通過したのが同九時五十分、突然に
男、女十三名に地より當地油、暗闇
氣に向ひたり

●書道の話(下)

出したものである。

醫有樂部 十日より大
歓迎し、発表するが、
「二ツ」の題を以て、
はたして、この風情

從一枯竹詩墨蘭 五卷「霜の夜全四巻

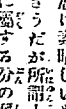
全島は乃木公武の
 ありつゝあらば
 利根の領
 速領開拓のかけ
 ▲現年十月
 ▲活版
 海老一
 二の替り

に水が流るゝといふものも
（各）それを光明皇后、聖武天皇、
孝謙天皇、桓武天皇の聖徳、
宇智王の九月十七日帖を金屋院方主
コロタイブにて原本の一冊刷出せる
法帖がある。ソレは東京神田佐久間
町の一西東書房で發定してゐるが
價格は一帖二圓以下で求め得る事が
出来ると思ふ。

日本につくさう日本酒の御前會
中知りなかり、酒造の店に入るが十
夜十二の替りとして出す。藝遊は若柳
やうめ、喜徳庵の虎二初にしての外面
の他あり

京都地方の成金の
屋敷茶噺しいものの
さうだが所謂小皮
に屬する分の職工

うめ



の太宗が非常に王國之
持つてゐる者はザラにあるといふ
如何なる小さな斷片
工でも地方の内務部長位の給料を

大書に「窮苦と雖も、處之の書と云へば、悉く寛
 めて無上に珍重し殊に關西帖を擇毫
 したのを此の上なく尊ばれたもので
 ある。それ故當時の能書家たる陳陽
 詡と楷遠良に命じて義之の書を臨楊
 させたものである。今違つてゐるの
 は亦く此の歐と經の臨模したものが
 更に臨模したものを義之の書と
 して傳へられてゐる體である。然る
 に本宗は關西帖を隨處に愛玩された
 入やイヤ入の指環が入れてあつ
 たりたさうであらう。つてゐる者は何百人あるか知れな
 程だといふ▲中には堂々たる眞字
 體へて生一本の四斗檜を据付
 出人の者には何人かを問はず伏まさ
 ければおかぬいかにも職工らしい
 金振を示す者もあつた▲最近の事
 が羽振りのよい職工達が總公會を
 つた時は、檮物の鯛の眼玉の中に黒
 入やイヤ入の指環が入れてあつ

「十一日、警視廳警部、向ふ山氏は今回「出火せし箇所あり（大森等）」

暑中御見舞

先日より名儀變更の爲め一時休業致
居候處本日より營業仕候間舊に倍し
御引立の程奉願候

大正六年八月七日

會席 京域旭町二丁目
海川魚料理 權平庵 事
すつぽん 中井ゆく
鳥水たき 理電二〇四六番

京域蓬萊町

陸軍御用酒 發賣元 三巴酒造株式會社

大田出張所 電話長一〇六七番
平壤出張所 電話長二五五番
電話長五一一番

特約販賣所は鮮満糧要の地にあり

明治佛蘭西教會坂下西町入口
女ドクトル 中村齒科醫院
電話五八三番
分院 資金町二丁目郵便所隣
電話一八九番

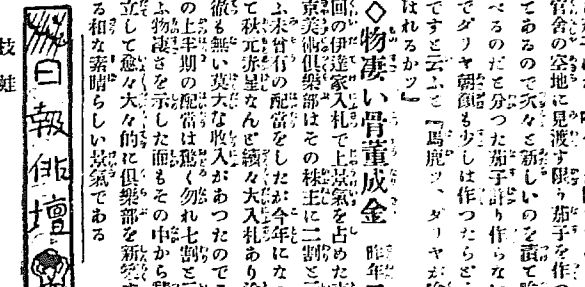
京子はお豊の什麼かあるといふのは、難くないことで、其處成行に任せるといふやうな無謀ではなかつた。

「そりやお前、什麼か爲るに構つてるぢやなくつて、けれども什麼か爲るを澄ましちや居られなからねわそれで今言つた通り、妾は二人で喰べて住かれるやうに爲やうと思つたから、氣の毒だけれど、お前に東京へ歸つて貰はうと思つたのだ。其代り妾が市野へ歸れるやうに爲ることを恩返しを爲てよ」

「ぢや御目奥様は、御家に御歸りに爲る御意であらつしやいますか？」

「爲ても、自活して行くんだわ。然うすると旦那様は、屹と妾を宅へ入れて下さると思つてゐるのよ」

「お豊は京子の言葉が打消すやうに『お豊に逆上せ切つてゐらつしやる旦那様ですもの、其處ことがおありに爲るもんぢやございせん。奥様は可い方へ／＼と思ひ込んでゐらつしは可いから可ません。それよりお反對に、御都合の御悪い方を御者屋へ遣はしたら什麼でございますかかお怒りますか逆も御宅へ御歸りに爲るんが御分りだらうと思ひます。』」



を知らせるやうに、親切らしい顔で

「什麼でございませう奥様、頼みますが、お爲りにならない且那樣のことを、何時までも思つてゐるツしやいまだに、おつちやないか。おつちやない御思ひ切りに、何に爲れるやうな、御氣樂に御暮しに爲れるやうな、

印字 東京本町一丁目

阪本印刷
名刺印刷

手代田瑞

電話九七五
電報九七五
郵便九七五

「此世海幸い世の中に、什麼してせよ」
「此世が貴女様なら、御能き遊
すのでございますよ」

涼みは

[illegible]

▲女の世界(美人、名媛、婦人) ▲東京新聞(一頁五欄)

市の中の小溝や泥水溜に朝鮮婦人の洗濯をなすものあり不潔極まる彼れこそ時節柄

早連取都らねば衛生上にも非常に悪い(通行生) ▲市内の溝を浚つて其の汚い泥や砂を道路に入れるのは御免を蒙る附近の家は燭が增へて臭くて仕方がない(清浦道人) ▲漢江では近來水死人が非常に多くなつた京籠の坊ちやん達一番發狂して川流飾興をやつては何うですか奇特な事ですよ(水泳者) ▲鐵道が濃鐵と合併したと同時に入場券五錢を全廢か一錢か二銭かに改正して附ひたい物價騰貴の今日あれだけ餘計なものだ全廢して

從來の人の染めた髪を見るに、如何にも際立つて麗しく、色澤が一服の人の髪と違つて、一見染めたところります、其上其髪は黒い色が首に附き、枕に附き、觸る物何にても附き、直に剃けて終ふといふ工合で、日本の美しい髪の毛のやうな色澤に染る染毛劑は在りませんでした。

これ共其後染毛劑は追々進歩して以前の方に見れば稍良いものが出始めました。また、自然の髪の際に都合よく染らぬ。決度良し事は染め度良しは染色が餘り不自然で、劇然目立て、困ると言つて遠く有様でした。

染めたと見えぬ
髪の方



赤毛を毛ぜむる

パール

暑い

用

お祭り 用

一番よくきく品質本位の懷中藥

り た ほ う かん

守田寶丹

匙二匙朝夕必ず服用せば

暑さに負けず元氣よく
胃腸丈夫に食欲進み
頭痛眩暈疲勞を防ぎて

悪疫諸病に罹る事なく

なつ けんかう

夏の健康は

[illegible]

○大言九九月
○代言九九月
○印大言九九月
○電大言九九月
○電大言九九月

朝鮮郵船

本 社 電話 九二五三三三

○開門 往 釜山 各埠經由雄基行
 往 仁川 各埠經由雄基行
 往 大邱 各埠經由雄基行
 往 蔚山 各埠經由雄基行
 往 釜山 各埠經由雄基行
 往 仁川 各埠經由雄基行
 往 大邱 各埠經由雄基行
 往 蔚山 各埠經由雄基行

○釜山 往 仁川 各埠經由雄基行
 往 大邱 各埠經由雄基行
 往 蔚山 各埠經由雄基行
 往 釜山 各埠經由雄基行
 往 仁川 各埠經由雄基行
 往 大邱 各埠經由雄基行
 往 蔚山 各埠經由雄基行

○釜山 往 仁川 各埠經由雄基行
 往 大邱 各埠經由雄基行
 往 蔚山 各埠經由雄基行
 往 釜山 各埠經由雄基行
 往 仁川 各埠經由雄基行
 往 大邱 各埠經由雄基行
 往 蔚山 各埠經由雄基行



明倫彙編

